

内藤雄士がDVDでレッスン／最新ドライバー20モデル徹底試打映像収録

ゴルフメカニク

GOLF

vol.6
エンターテインメント

DVDと雑誌でゴルフをマダカにする

m p c h a

最強
ドライバー
メカニク

SLBルール適合
最新
20機種

内藤雄士の

ショットの
悩み
解決します

- ◎話題の四角ヘッド・ナイキSUMO2のビックリ打球音
- ◎410ccの小振りヘッドが復活
- ◎シャローヘッドとディープヘッドは、どこまで弾道が違う

ハイスピードカメラで見た最新ドライバーの
モーメントカ

17メーカー20モデル
知れぬ尺子
打球音もバツリ映像収録

スライスの最新メカニクス



保存用ケース付

100分
収録 DVD

ミスも疑問も一発解消!!

（ドライバー・アイアン・ウェッジ・パターまで）

- ◎スライスの原因と対策
- ◎番手ごとの飛距離差が出ないのはなぜ?
- ◎100y以内をメカニカルに打ち分ける
- ◎シャンク・ザックリを撲滅
- ◎ラウンド前の効果的練習法

Q&A

特別価格 980円

Garry Images

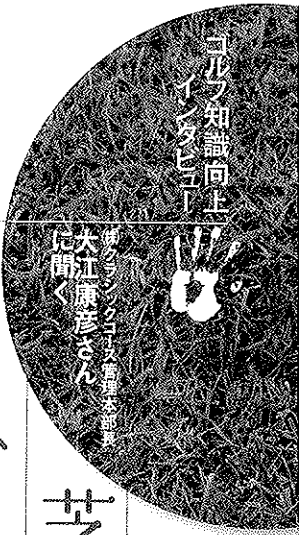
砂の層が30cm
玉砂利の層が10cm。
この厚さに意味がある

——サンドグリーンはどんな構造にな
っているのですか？

大江 穴を掘って、エッジをビニール
で囲みます。分りやすいと、超
巨大な風呂桶を作る感じです。そして
一番下の地面の部分に配管をひいて水
がスムーズに流れるよう排水設備を張
り巡らせます。この上にコブシ大の石
を敷きつめ、さらにその上に小粒の玉
砂利を10cmの厚さに敷きつめます。こ
の玉砂利にはビートモスを混ぜさせ、
保水力を高めます。最後に30cmの厚さ
で砂を敷きつめ、その上に芝を植えつ
けます。

——なぜこのような構造になっている
のでしょうか。

大江 排水性を良くすると共に、最適
な保水力を維持するためです。この構
造にすることで、砂が一定の保水力を
保てるのです。詳しく声明しましょう。



ゴルフ知識向上
インタビュー

大江康彦さん
に聞く

INTERVIEW

本誌「Vol.2」で「芝がわかると、ゴルフがもっと面白くなる」と題した芝の話掲載したところ、読者の方から大きな反響をいただいた。編集部では、読者の芝に対する関心の高さに驚くとともに、反響の大きさに気を良くして「芝特集の第2弾」を行なうことになった。今回はゴルフ場の芝のオーソリティであるクラシックの大江康彦さんを訪ね、芝のことを詳しく聞いた。そうしたと「グリーン」の速さは季節で変わります。速い季節と遅い季節があります。また午前と午後のグリーンの違いが大きい季節とほとんど変わらない季節もあります」という面白い話を聞くことができた。というところは、芝の特性を知っていると季節ごとの正確なグリーン速度がわかり、スコアメイクにも効果を発揮するということであるようだ。

芝がわかれば スコアもよくなる

Vol.2の「芝の話」が大好評につき
ゴルフメカニクスはさらにグリーンを追求してみました。

10cmの厚さに敷きつめた玉砂利とビ
ートモスを混ぜた層は水をためる役割を
果たし、常に水が飽和状況になるよう
作られています。この10cmという厚さに
大きな意味があつて、厚すぎると水が
多く溜まりすぎ、厚さが足りないと十
分溜まりません。そして上の砂の層が
乾いてくると、毛細
管現象を利用してこ
こに溜めておいた水
を吸い上げます。そ
の結果、砂の層は常
に一定の保水力を保
ちます。砂の層は、砂
と水と空気が2対1
対1の割合に保たれ
るのが最適の数値で、
芝の生育に一番適し
ます。砂の層は必ず
30cmの厚さで作られ

るのですが、この厚さにも意味があり
ます。厚すぎると毛細管現象がうまく
働かず水が十分に上がつてきませんし、
厚さが足りないと水が上がりすぎてタ
ポタポになつてしまいます。

——最近流行の大きなポテトチップグ
リーンにおいて、玉砂利を10cm、砂を
30cmの厚さに均一に揃えるのは大変難
しい作業ですね。

大江 その通りです。グリーンのとこ
ろどころに杭を打って、均一の厚さに
なるよう作り上げます。まさに職人芸

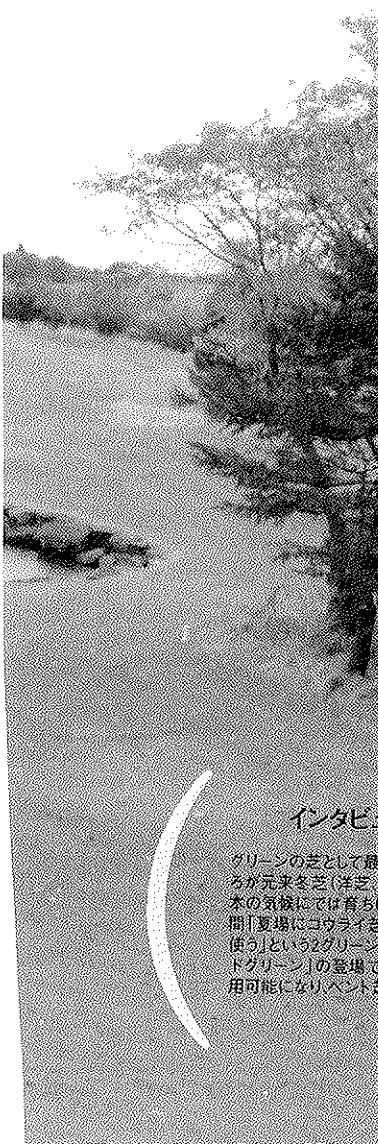
といえますね。

——砂を2対1対1の比率で保つため
には、砂質にも秘密があるのですか。

大江 グリーンを作る際には、多くの
砂のサンプルを取り寄せます。ひと口
に砂といってもさまざまなタイプがあ
りますからね。特に粒形は重要なポイ
ントです。砂には丸いタイプもあれば
尖っているタイプもあり、その中から
最適な粒形を見つけます。全国各地か
ら何回もサンプリングして、最適な砂
を探し出すのです。

インタビューに入る前にちょっと豆知識

グリーンは芝として最も上質と言われているのが、ペント芝である。ところが元々芝(洋芝)寒冷地型芝草)であるペント芝は、高温多湿の日本の気候には育ちにくい芝であった。そのため日本のゴルフ場は長い間「夏場にコブシ芝のグリーンを使い、冬場にペント芝のグリーンを使う」という2種類の芝で対応してきた。しかし床土に砂を使用する「サンドグリーン」の登場で、状況は一変した。夏場にもペントグリーンが使用可能になり、ペント芝の1グリーンがゴルフ場の主流となったのである。



芝は刈り込むことで 新芽が広がり 芽が詰まってい

——グリーンの基礎が完成したら、芝を張るわけですね。

大江 芝は基本的には、(張らずに)種蒔きで育成します。

——張るのではないのですか。

大江 種を蒔いて1から育成したほうが、きれいに仕上がります。(他で)育成した芝を張れば工期は短縮できますが、どうしても根にグリーンの砂とは異なった砂が付いているため芝つきが悪くなります。(芝の下についている)砂をすべて払いきってから張り付けを行なうのですが、僅かですが残ってしまうため種から蒔いたほうがきれいに仕上がります。

——種蒔きから始めて使用できる状態になるにはどのくらいかかるのですか。

大江 早くて3ヶ月、通常は6ヶ月かかります。

——その間、芝は伸ばしっぱなしにしておくのですか。

大江 いいえ、何回も刈り込んでいきます。まず、芽が出て7mmくらいの長さになった時点で刈り込みます。そして伸びるたびに刈り込んでいきます。芝は刈り込むことで刈ったところから新しい芽が出てどんどん横に広がり、芽が詰まっていきます。刈らなければ単に上に伸びるだけで芽は詰まりません。——サンドグリーンは構造的に複雑ですが、造成費はどのくらいかかるのですか。

大江 通常のグリーンの2倍以上かか

ります。グリーンの大きさにもよりますが、グリーン1面で1000万から2000万円です。ただしグリーンに対するプレーヤーのニーズは、テレビのトーナメント中継の影響などもあり年々高まってきています。速くて、硬くて、アンジュレーションのある大きなグリーンをのぞむプレーヤーが多くなっているのです。そのニーズに応えるために、グリーンの造成費用はどうしても高くなる傾向にあります。

——最近のグリーンは水ハケが良く

「サンドグリーンは
砂と水と空気の割合を
常に最適に保てるグリーンです。
だから高温多湿の日本の夏を
乗り切れるのです」

急な大雨でもグリーンに水がたまりません。グリーンの下に排水設備を施すことで水を即座に逃がしているのですね。ところで、配管を通った水はどこに逃がすのですか。

大江 池やクリークに逃がします。今は環境問題の理由から、コース内の水をコースの外に出しません。池やクリークに溜め、それを浄化して再び散水用の水として活用します。コース内の

池やクリークは、戦略性と景観を高めるツールとしてだけでなく、水をリサイクルする用途も担っているのです。

——寒地に適合したDNAを持つペント芝は、サンドグリーンの導入で高温多湿の日本でも育成できるようになったわけですが、サンドグリーン化に伴って高温多湿の日本の夏を乗り切れるものなのでしょうか。

大江 サンドグリーン化だけでは無理

樹クラシック・コース管理本部長

大江康彦さん!

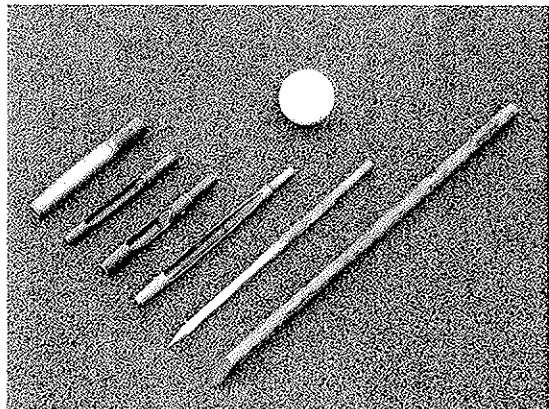
PROFILE

1960年生まれ。鹿児島産大卒業後、日東興業に入社。ゴルフ場勤務した後、米国に赴任。ジョージア州のクラブでコース管理に携わり、その後、オーストラリアでゴルフコースを管理。1997年にOGC(オーストラリアゴルフ協会)のグリーンメンテナンス公認ライセンスを取得。1998年、名門「小樽カントリー倶楽部」のグリーンキーパーに就任。同コースで行なわれる「日本オープン」(ナショナルクラシック)のトーナメント用のコースセッティングに従事する。2006年樹クラシックのメンテナンス本部本部長に就任。

ですね。日ごとの更新作業を的確に行なわなければ、夏場の使用に耐えられません。そしてこの更新作業の進化が、ペント芝の通年使用を可能にしたもうひとつの理由なのです。更新作業では、特にエアレーションが重要なポイントとなります。これで常に根に空気を送ることができ、根が深く伸びます。根が上ると、どうしても枯れやすくなりますから、根は、夏期には自然に上がり短くなります。そこで下に伸びる春に、いかに長く伸ばせるかがポイントとなります。春に長く伸ばしておけば、夏に上がっても十分な長さが保てます。

「エアレーションでは、具体的にどんな作業を行なうのですか。」
 大江 コア抜きといって、穴を開けて部分的に芝と砂を抽出していきます。抽出したものをコアと呼ぶのですが、そのコアを掃除機のような機械で回収した後、砂をまき、開けた穴を埋めます。仕上げにシールマットできれいにし、開けた穴の中に砂を摺りこんでいきます。この作業でグリーンに新しい砂を入れることができ、空気を送るだけでなく天地返しができます。開ける穴の大きさは、機械の進歩によってさまざまな形で開けられるようになりました。昔はワンパターンの穴しか開けられませんでした。今は大きさ、深さ、間隔を自由に調整できます。機械の進化がエアレーション作業の技術を大きく進歩させたのです。エアレーションは本州以南で年3〜4回、北海道で年2回行ないます。時期としては、春と秋です。この時期は芝が生長する

時期で、根が動きません。だから一番効果があります。そのほかムク刃と呼ばれる器具で芝をついて根に空気を送り込む作業は、年中行ないます。また、根切りという作業も行ないます。



さまざまな種類のムク刃。コア抜きをするエアレーションのほか、このムク刃で常時芝をつつき、根に空気を送り込んで生長を助ける。

ペンAシリーズとペンGシリーズのふたつがペント芝の主流に

「ひと口にペント芝といっても、さまざまな種類がありますよね。」

大江 ペント芝は世界中のゴルフ場で使用されるメジャーな芝です。品種改良も盛んに行なわれていて、いろいろな種類があります。そして数ある中で、最近のグリーンに多く使われているのが、ニューペントと呼ばれるタイプです。特に「ペンAシリーズ」と「ペンGシリーズ」の「A」は「AUGUSTA」

「GEORGIA」の略で米国・ジョージア州で品種改良された芝です。ペンGシリーズのほうが、Aシリーズよりも耐暑性に優れています。一方ペンAシリーズは、耐暑性は劣りますが芝質としては最高です。日本のグリーンキーパーの能力は年々高くなっており、ペンAシリーズを使うゴルフ場が増えていきますね。

「一方「ペンGシリーズ」の「G」は「GEORGIA」の略で米国・ジョージア州で品種改良された芝です。ペンGシリーズのほうが、Aシリーズよりも耐暑性に優れています。一方ペンAシリーズは、耐暑性は劣りますが芝質としては最高です。日本のグリーンキーパーの能力は年々高くなっており、ペンAシリーズを使うゴルフ場が増えていきますね。」

「芝目についてお聞きしたいのですが、ペント芝はコウライ芝に比べ芝目を感じません。そのペント芝で、コースによって芝目を感じるグリーンと感

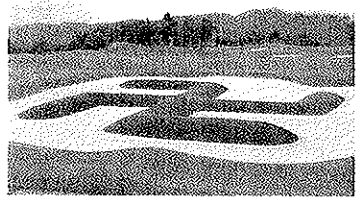


「根が一番伸びるのが春です。春にいかに根を長く伸ばせるかが、グリーンを完璧にするポイントです」

じないグリーンがありますが。大江 コウライ芝は、芝質が硬いのでどうしても芝目ができます。一方ペント芝は、基本的に葉を立てて育ててやれば芝目はできませんが、立たずに寝て育てると芝目ができます。また立てて育てたとしても、さまざまな条件で芝目ができます。具体的には、まず風の向きで芝目ができます。常に一定の方向に風が吹くコースであれば、その方向に芝が寝て芝目ができるのです。また近くに山がある場合、その影響も受

INTERVIEW

インタビュー & 撮影で使用したコースは
名匠ミュアヘッドが「富嶽三十六景」をイメージして雄大な富士の麓に作ったコース



富士1ばんゴルフ

例クラシックが全国に8コース展開するうちの1コース。名匠デズモンド・ミュアヘッドが富士山の麓に設計した、スコットランドのリンクスをほうふつさせるコース。ミュアヘッドはゴルフ場をキャンパスに見立て、絵画を描くがごとくコース設計をすることで有名である。同コースは浮世絵師・葛飾北斎の名画「富嶽三十六景」を基本に設計。北斎の描いた版画絵が見事なまでにデザインされ、戦略性の高いコースとして仕上がっている。

る。フェアウェイの芝に洋芝(冬芝)を採用しているのも、同コースの特徴のひとつ。関東近郊で洋芝を採用しているゴルフ場はほとんどなく、標高が高いところに位置するためフェアウェイの洋芝化が可能になった。この洋芝化で、洋芝独特の高品質なプレーが楽しめる。冬期間(1月15日〜3月9日)はクローズして芝を育成し、3月10日より春オープンする。そしてそれと同時にゴルフ場の名称が「富士クラシック」に変わる。

所在地: 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺2-2
 ☎0555・89・3300



カップから取り出された円筒の芝。
下の砂の部分に根がびっしりと生えている。

取り出した円筒の芝の下の部分も
根がびっしりと生えている。
根がびっしりと生えている。
根がびっしりと生えている。

グリーンが一番遅いのは 春先と夏。

一方速いのは、秋から冬

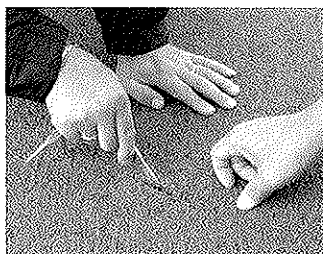
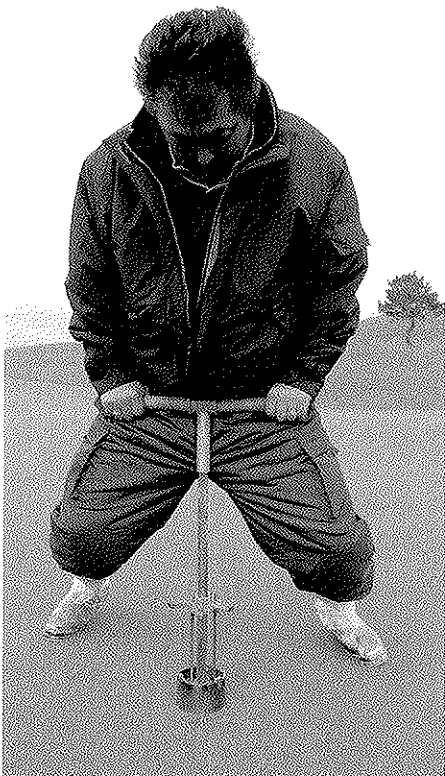
——芝は生き物ですから、プレー中にも芝が伸びていきますよね。そうすると午前よりも芝の伸びた(午後のほうがグリーンは遅くなり、事実「午後はグリーンが遅い」というのが定説になっていますが、それは本当なのでしょうか。大江 それは半分本当で半分正しくありません。なぜならば芝の速さというのは、気象条件と季節が複雑に絡んで決まるからです。詳しく説明しましょう。まず、芝の生長が旺盛な春、特に春先は芝がよく伸びるので、午前と午後は速さが大きく変わります。しかし秋は上には伸びなくなる季節なので、午前と午後とはほとんど速さは変わりません。そして芝の生長がお旺盛な春でも、気象条件によつては必ずしも(午後は)遅くなりま

けます。さらに太陽の方向、つまり東から西に葉が動こうとしますからその方向にもできます。そして次のティグラウンドに向かう方向に足跡による動線ができるので、その方向に芝が寝て芝目ができます。そこで我々は、そうならぬようにできるだけ芝を立たせて育てて刈り込みます。そして刈り込む時も、一定の方向だけに刈り込んでいくとその方向に芝目ができるので、「時計方向」といって12のパターンで芝を刈ります。

せん。というのは、天気良くて風の強い日は芝の表面が乾いてくるためその効果で速くなるのと相殺され、あまり変わらないのです。一方曇天で風がない日は表面がさほど乾かないため、(芝が伸びた午後のほうが)遅くなります。

——ということは、曇天で風のない春の午後というのが、午前と午後の差が一番大きいということになりますね。大江 そうですね。そして芝は、1年中同じ速さというわけではなく、季節によつて速さが変わります。芝が遅い季節は、春先と夏です。春先は芝が伸びるので時間とともに遅くなります。一方夏は、生長は遅いのですが暑さ対策で水をより多くまくので終日遅くなります。一方1年中で一番速いのは、芝の生長が遅い秋から冬にかけてです。とはいっても、グリーンが遅いというのはスティーンメーター値で10フィートを越えないとそうそう感じるものではありません。通常のゴルフ場では、お客さんがよく入るパブリックで8フィート、速く設定しているゴルフ場でも9フィートといったところです。10フィートを越えるとグリーンが難しく、お客さんが滞留してしまいま

す。



グリーン上の芝をチェックする大江本部長(右)と富士1ばんのスーパーインテンダントの石本修二さん(左)



すから。実はグリーンを作る作業においても、9フィートから10フィートにかけてひとつの壁があり、10フィートに仕上げるのはとても難しい作業です。さらに言うならば、10フィートから11フィートにかけてもうひとつ壁が存在します。そして速さというのは、ダブルカットしようがトリプルカットしようが速くなりません。いかに前々から管理できるかが勝負の分かれめといえます。

——大江さんはトーナメントコースのグリーンを経験されていますが、トーナメント用の10〜11フィートといった速いグリーンはどうやって作るのでしょうか。

大江 トーナメント時に最高の状態にもっていけるよう1年のスケジュールをしっかりと組み立て、それにのっとった管理をします。そしてトーナメントの1ヶ月前に一度トーナメントと同じ状態にグリーンをもっていて芝にストレスを与えます。そしてその後、2〜3週間芝を休ませます。そうするとトーナメント中でも耐えられるグリーンになります。これをせずにぶつければ本番でトーナメントにのぞむと、急な天候の変化ですぐダメになってしまいます。芝というのは生き物ですから一度ストレスを与えることで自分が生きようとかんばります。その生きる力をうまく利用すると、どんな天候の変化があってもトーナメントを乗り切れるのです。

「グリーンをトーナメントの1ヶ月前にトーナメントと同じ状況に持っていきます。そうすると、急な天候の変化に耐えられるのです」



カート道路の脇の芝をカットするスーパーインデペンデント石木さん



ショットで削り取られた大きなターフ。この大きなターフは、冬芝(洋芝)をフェアウェイに使用しているから。

地球温暖化の影響で冬芝の生育地域が年々北上している

——ところでエアレーションは、グリーンだけでなくフェアウェイも行なうのですか。

大江 もちろんです。グリーンと同じ時期に行ないます。

——フェアウェイの芝というのは夏芝が主なのですか。

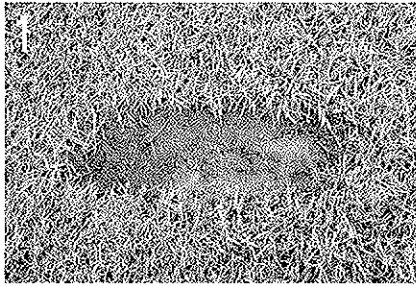
大江 はい。昔は山形県あたりまでフェアウェイを冬芝で作れたのですが、地球温暖化の影響で冬芝(洋芝)の生育地は年々北上しています。今では、冬芝をフェアウェイに使っているのは北海道くらいになりましたね。しかし近年は北海道も真夏日になることが多く、このままどんどん温暖化が進むと冬芝を使ったフェアウェイは日本のコースから姿を消してしまつかもれません。——フェアウェイの芝はどのくらいの長さに刈るのですか。

大江 ゴルフ場によってまちまちですね。冬芝は短く刈れる芝ですからその良さを出すためには10〜12mmくらいまで短く刈ったほうがいいのですが、短く刈るとアイアンはタフリやすくなりフェアウェイウッドは打ちにくくなります。上級者は短いフェアウェイを要求しますが、アベレージゴルファーには過酷な条件になります。一方夏芝は12〜13mmに刈り込みます。昔は20〜25mmくらいに長く刈っていたのですが、今では刈り込み機械の進歩でこの短さまで刈れるようになりました。

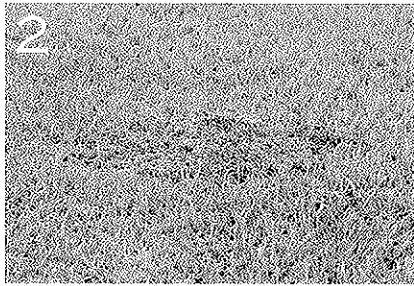
気持ちよくプレーするために 目土とボールマーク直しは必ずやるぞ！

あなたは目土をちゃんとしていますか？ 最近セルフプレーのコースが増えた影響からか、目土されていないディボット跡が目につく。目土されていないディボット跡はプレーをつまらなくするばかりでなく、芝の生育にも良くない。「ターフを削り取ったら、サッと砂をかける」、そんなマナーのいいスマートなゴルファーでいたいものである。

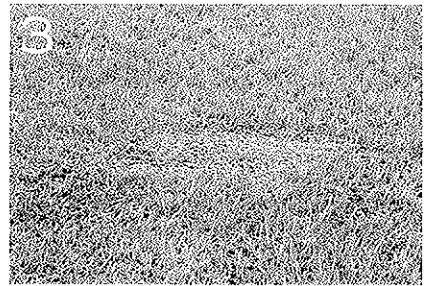
通常の日土の仕方



1 大きく削り取られたディボット跡。このままほうっておくと後続プレーヤーに迷惑がかかる。

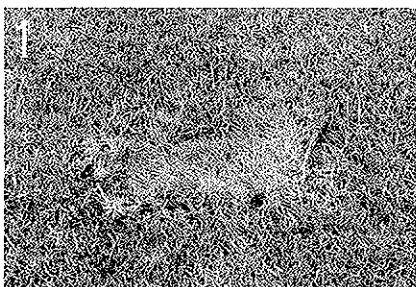


2 ディボット跡に、目土をする。砂が盛り上がるくらいでんご盛りにするのがポイントだ。



3 足で平らにならず。てんご盛りにされた砂が周辺に広がり、その砂も芝の育成を助ける。

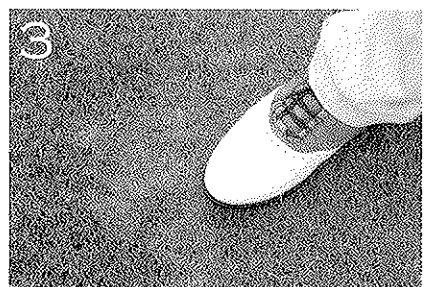
フェアウェイが洋芝の場合の、目土の仕方



1 洋芝は根付きがいいため、根に付いた砂が乾く前に、削り取られた芝をディボット跡に戻すと再生する。ただし、単に戻すだけではダメ。



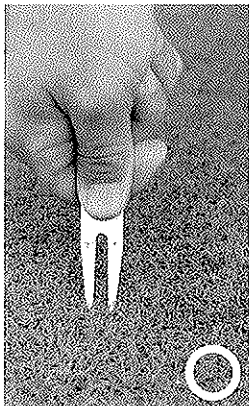
2 戻した芝(ディボット)の周囲に、まんべんなく砂をかける。これが芝をスムーズに再生するポイントだ。芝を置いただけでは枯れてしまう。



3 砂をかけたなら、足で平らにならず。芝が浮かないよう、砂と芝がなじむようにならしていくのがポイント。

ボールマークの直し方

ボールマークを直すときには、根を切らずに直すのがポイント。芝を下から持ち上げて穴をなおすと根が切れてしまうので注意しよう。

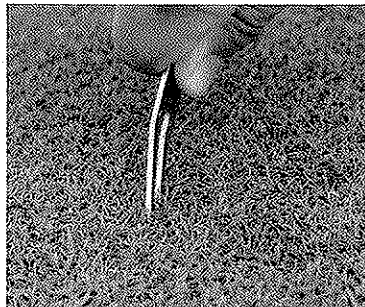


○ グリーンフォークを芝に刺したら、穴を埋めるように周囲から芝を徐々に真ん中に寄せていく。そして仕上げに、パターのソールで平らにならず。

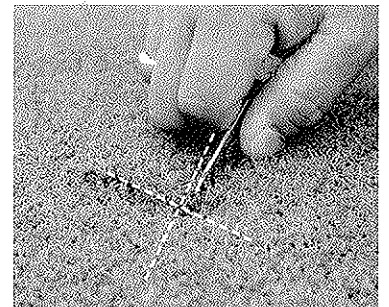


× 刺したグリーンフォークをテコのように使って、下から持ち上げてはいけない。この方法では、根が切れてしまう。

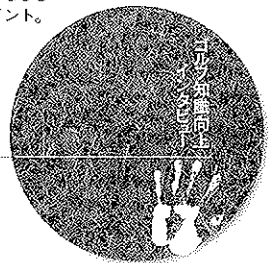
プロの裏技的 グリーンフォークの使い方



グリーンフォークを写真のようにタテに差して使うのが、プロの裏技。このように差すと、根に負担がかからない。



ボールマークの穴を囲むように、4方向にグリーンフォークをタテに差して穴を直していく。



INTERVIEW